

旭川・網走の両開発建設部が建設を進めていた旭川紋別自動車道の浮島IC～白滝IC間(19.8km)が平成14年3月30日に供用開始となりました。これにより、オホーツク圏に初めて高規格幹線道路が到達し、オホーツク圏や道北圏の社会経済活動がさらに充実するものと期待されています。



旭川紋別自動車道
(浮島IC～白滝IC) 供用開始

旭川紋別自動車道 「浮島IC～白滝IC間が供用開始」

事業の概要

旭川紋別自動車道は、道北圏の中心都市旭川市と遠軽町・紋別市を結ぶ延長約130kmの一般国道の自動車専用道路であり、当区間は先行的に供用されることとなりました。

今回供用が開始された区間は、国道273号と国道333号との交点付近に設けられた浮島

ICから白滝ICまでの延長19.8kmの間です。国道交点の北側から、JR石北本線と川をロングランプで越えた場所に浮島ICが設置され、23箇所の橋梁や全長4,098mの北大雪トンネルを経て、白滝市街地東側の国道333号に設置された白滝ICへと至ります。

同区間は全線暫定2車線となっていますが、現道の国道333号北見峠区間は半径150m



未満のカーブが 29 箇所、最急勾配 6%に対し、同区間は最小半径 1,500 m以上、勾配も全区間 3%未満となることから、走行の安全性、快適性が向上するとともに、通行止の減少など信頼性の点においても交通条件が大幅に改善されました。また、白滝村にはパーキングエリアが設置され、物産館が併設されることになっています。

構造別延長は、トンネルが 4.1km、橋梁が 3.0km、その他土工が 12.7km で、設計速度は全線が 100km/h となっています。



北大雪トンネル坑口（上川町側）

技術的特徴

北大雪トンネルはナトム工法による発破掘削を導入し、平成 2 年度工事着手、平成 8 年 11 月掘削工貫通、平成 9 年度～平成 13 年度にかけて、トンネル覆工、坑門工、塗装工、照明、防災施設を整備し、総事業費約 200 億円を費やして、今回平成 14 年 3 月 30 日に待望の供用開始となりました。

当区間は標高 700m 弱の山岳地帯を通過しているため、現在建設中の高規格幹線道路のうち最も険しいルートと言われています。吹雪による視界不良など厳しい気象条件を克服する「冬に強い高速道路」の実現が重要な課題であるため、視線誘導標や監視カメラの設置間隔短縮により、道路交通管理室（札幌）で路面や気象状況等をリアルタイムで監視することになっています。



開通式



水明橋

整備効果

オホーツク圏と道北圏を結ぶ国道 333 号は、標高 857 m の北見峠を越えるために線形不良の区間が多く、過去 20 年間で 14 回の通行止め等広域交通のネックとなっていました。

今回の供用により、北見峠の隘路解消による安全性、定時性、快適性が向上し、高速性が確保されるなどの交通面での効果によって、オホーツク圏と道北圏の産業、経済の交流促進による活性化や、医療や文化などの高次な都市サービスの提供による住民の暮らしの質向上につながるものと期待されています。

特に農水産業については、鮮度が要求される水産品の、迅速な輸送ルート確保によって全国の消費者に早く届けられることとなり、農産品については信頼性が高い交通軸が確保されることにより、食料の安定供給につながることとなります。

なお、開通後の調査では交通量が約 1,900 台 / 日（4 月中の平均）、ゴールデンウィーク中の 5 月 5 日には約 8,090 台 / 日の利用がありました。

また、利用者からは「これまでの峠とは全然違って、素晴らしい道路でウキウキした気分になりました。」というように好評を得ています。

大都市圏から最も離れたオホーツク圏では、経済活動面における競争条件向上のために、また、地域住民がより安心して暮らすことができるように、旭川紋別自動車道の早期の全線供用が望まれています。



白滝パーキングエリア

（資料提供：旭川開発建設部道路第 1 課）